第4回 学校運営部会 議事録

1. 日 時：令和6年9月27日（金）午後7時より、（ジオアリーナ）

2. 参加者：委員12名（1名欠席）、事務局9名

3. 内 容

（1）教育長あいさつ

（2）部会長あいさつ

（3）資料説明及び意見交換

①学校指定物品について 【資料1、2-1、2-2、2-3】

②放課後活動について 【資料3】

③連携型中高一貫教育について 【資料4-1、4-2、4-3】

4. その他

《資料説明及び意見交換》

事務局 ・本日はお忙しい中、ご出席いただきありがとうございます。お手元の次第に従い、ご意見等を頂戴したい。よろしく願います。始めに本日の資料にはないが、新中学校の建設工事に関する状況を報告させていただく。まず、この秋から校舎建設に向けて関連する工事がスタートする。一つ目の工事は地下横断歩道の付帯設備工事ということで、コンクリートの柱や電源関係の引き込みの配電、通信関係といった工事が始まる。二つ目の工事は仮設昇降口等の工事ということで、勝山高校の生徒玄関を新中学校の校舎の一部として作り直しをして、2階に多目的室を作る等で生徒玄関を取り壊す。その代わりに生徒玄関、昇降口を仮設で勝山高校の職員玄関のあたりに作る。併せて渡り廊下の仮設や仮の囲い関連の工事をやる。三つ目の工事は解体、整地工事ということで、生徒玄関以外にも部室等を壊す工事等、敷地の整備をする関連の工事になる。これについては契約も済み、着工に向けて準備を進めている状況になる。地下横断歩道の建設工事、つまりジオアリーナから勝山高校に向けて国道の下にボックスカルバートを埋めていく工事については、契約の金額が大きい。金額が大きい場合は契約について市議会の議決で認めていただく必要がある。そうしたルールがあり、先の3つの工事は額が小さいので契約をして進めている。地下横断歩道の本体の工事については、9月の勝山市議会定例会に議案として上提している。これについては、新聞にも載っている。その状況を説明すると、まず議会に議案を上提すると、議会の中に新中学校建設特別委員会という委員会があり、そこで議案の審査をする。そこで可否の判断があつて、それをまた本会議で最終的に決めるという段取りで議案の審議は行われる。最初の特別委員会で審査されたときに可否の採決がなされず、継続審査と言う形で、今回は判断しないという判断になり先送りになった。これは3月に当初予算を決めるということで3月の定例会で「新中学校建設に係る予算」と「令和9年4月に開校するという条例」の2つは3月の議会では承認をいただいていた。理事者としては、予算を認めていただいたので、計画に従って執行していく中で、色々な工事の準備を進め

て契約をしてきた。今回の地下横断歩道の工事についても、入札をして、落札した業者と仮契約をした。本契約については議会の議決を経てからになる。特別委員会では市長選挙が11月下旬にあり、その結果を受けてから審査すべきという動議が出された。一票差でその動議に対する賛成多数で継続審査になった。継続審査という判断が出た以上、これについては動けない状態になる。この秋すぐに始めたいと思っていた地下横断歩道本体の工事がそうした理由でストップした。このことで新中学校開校の令和9年4月までに地下横断歩道の工事が間に合わなくなる可能性も出てきた。そういうことで委員の皆様においては、こうした状況であるということをご理解いただくとともに、他にも新中学校開校について心配されている方がいらっしゃると思うが、そうした声も既に聞いているので、そうした方々に聞かれたら、今回の状況についてご説明いただく等、お力添えを賜りたいと思う。今後は再編準備委員会の他の方々にもこういったことをお伝えしたいので、臨時で開催して集まっていただくようなことも考えている。校長会等でも説明して、保護者から先生方に問い合わせがあった際に答えられるように、というようなことを来週以降に実施したいと思っている。ちなみに中学校の校舎本体の工事について、計画では10月の下旬から入札に向けた準備を進め、11月に公告をして、12月あたりに業者を決めて契約、これも額が大きいので議会に出す必要があるが、そうした今後の準備は持っているが、継続審査ということで、そうした動きについても考えている。こちらにも影響が出ないか心配をしている。工事については契約済みのものについてはスタートできるが、地下横断歩道については、困っているということをご理解いただきたいと思います。今後ともよろしく願います。以上になる。質問等あれば、お答えする。後からでも構わないので何かあればお聞きいただきたいと思います。それでは、以降の進行を部会長に願います。よろしく願います。

部会長 ・皆様、こんばんは、お疲れ様です。本日も議事、話題がたくさんあるかと思うので進行にご協力いただきたいと思います。今の話を伺うと、教育長をはじめ事務局の皆様が一生懸命な思いが伝わってきた。是非、引き続き粘り強く業務に当たっていただきたいと思います。今日こちらに来る前に、若狭町の上中中学校に探究の支援で行ってきた。三方中学校も支援に行っているが、上中中学校は1人1テーマで個人探究をしている。本当に自分の疑問を持って課題・仮説を立てて調べて実証して、そしてまた考察してということをして中学校1年からやっていて、それが習慣になれば高校に入ってから、社会に出ても、しっかりと周囲と共同して、世の中を切り開く子たちに、嶺南の地区を支える子たちになっていくと期待をしている。そうした支援に行く度に勝山はどうなのかということをお聞きしたい。先程、工事やハード面の話があった。本日の議題もハード面というか、周りの部分があるかと思うが、引き続き中身の教育の部分も忘れることなく、しっかりと準備をしていただきたいと思います。早速レジュメに従い、資料説明と意見交換ということで、まず事

務局から本日の流れをご説明いただきたい。よろしく願います。

事務局 ・ 本日は、まず前回に引き続き、今年の入学説明会で説明する事項を念頭に学校指定物品の詳細についてお聞きいただきたい。その後、放課後活動については、部活動の地域移行についての進捗状況を報告させていただきたい。最後に新中学校の教育の核となる連携型中高一貫教育について、これまでの協議の中で出された意見を参考に協議を進めていただきたい。よろしく願います。

部会長 ・ 今の説明の形で進めたいと思う。まず事務局から説明をお願いします。

事務局 ・ レジューメの方では資料をいくつか掲載しているが、まとめて説明するので、皆様には後ほど4つの点についてご意見をいただきたいと思う。よろしく願います。まず今ほど説明したように、今年の12月5日の木曜日にジオアリーナにて、市内の小学6年生とその保護者の皆様にお集まりいただき、交流会を兼ねた新中学校の説明会を予定している。その週の日曜日、12月8日に市民活動センターにおいて3中学校合同で物品販売を行うことになる。制服などの指定物品については既に決定しているが、推奨品として展示する予定の品を、前の机に並べている。基本的に推奨品なので、業者から提案のあった品物については、事務局で見た限り特段問題がないと考えているが、それでよろしいかということが1つ目になる。それから購入に当たり、変更が非常に多いため、保護者がどれを買えばいいのか、どこまでが自由なのか、迷うと思われる。資料1をご覧ください。この資料1をお渡しすることで、何を買えばよいのかご判断いただくことができると思う。そこで皆様にはこの資料をご覧ください、保護者の視点でご理解いただけるかをお尋ねしたい、というのが2点目になる。説明をすると、まず一番上に書いたのは、7、8年度は、制服、体操服、内履き、カバン等といったものについては移行期間なので、お下がり可とする旨を書いた。次に制服のあり方として、制服は以下を正装とする。ブレザー・スラックスまたはスカート・カッターシャツにリボン・ネクタイ、夏季はスラックス・スカートもしくはスカート・カッターシャツまたはポロシャツということで、カッターシャツは白で無地のものであれば市販品でも可としている。また、通常ではカッターシャツの代わりにポロシャツでも可であり、ジェンダーレス対応としている。体操服については基本、長袖・長トレパン、夏季は半袖・ハーフパンツとしており、これまでもご説明したとおり、長袖の夏服もあるので、これについては希望者は購入いただける。それからゼッケンについては、6枚組の小さなものを準備する。事前に名簿を業者に渡して、6枚組を準備しようと思う。ただし、兄弟のお下がりを使うためゼッケンが不要になる場合については、その旨を物品販売のときにお伝えさせていただきたいとしている。内履き外履きについては、ラインや紐などによる学年の色分けはしないとしている。推奨品はあくまでも推奨なので、類似品であれば市販品でも可ということをお記している。それから来年・再来年の子どもたちは1、2年生の間は現3中学校に入学す

ることになるので、基本的には1、2年の間は現3中学校の法則に従っていただく。通学用カバンについては現在はナップサックと通学カバンだが、今後は指定はなくなるので、買う場合については大型のリュック式のものとしている。セーター、ベストについては、3中学校とも紺、茶、白、グレー、黒などの無地でワンポイントまでと規定しているので、このあたりについては現3中学校の規定に準拠している。それから、自転車通学を希望する場合は必ずカッパの準備をお願いするという。その他、現中学校の規定については中学校へお尋ねいただくと、こうした形の資料になっている。このような資料でよろしいか、後ほどご意見をいただきたいと思う。それから、この資料については、再編準備委員会と中学校校長の連名で出ささせていただきたいと考えている。3点目は、前に飾っている体操服のロゴマークについてになる。資料2-1をご覧ください。これは体操服の業者から、提案いただいたものになる。それぞれのデザインを体操服の首の後ろにつけた場合のイメージになる。このロゴマークについて、ワーキング会議で、先生方に意見を尋ねた。資料に書いてあるが、このロゴ案については、多数決の結果、案3がいいのではという意見をいただいた。マーク案については、多数決の結果、マークは不要という意見をいただいた。事務局としては、この意見をベースにして、この部会で承認いただきたいと考えているがご意見をいただきたいというのが3点目になる。4点目はボタンについてになる。資料2-3をご覧ください。前にブレザーを展示しているが、そのボタンにも、缶バッジのように中にデザインを入れ込む形でオリジナルのものを作る想定になっている。そのボタンのデザインをどうするかということになる。これも業者から提案いただいているが、エンブレムBベースと書いた一番上のもの、これについては、エンブレムを選ぶときに、子ども達が考えてくれた案の中で票数が2番目に多かった案を採用したデザインになる。説明すると、この手のようなものが両側に広がっているのは翼をイメージして飛び立つような意味合いで、これからの展望が開くといった願いを込めたアイデアということで、中学生が考えてくれた。これをボタンにしてはどうか、というのがエンブレムBベースというものになる。それからエンブレムCベースというのは、票数が3番目に多かった案を採用したものになる。それから、業者からご提案いただいたのが、ご提案デザインと書かれたものになる。エンブレムが恐竜になるので、それに合うようにということで、恐竜の足跡をモチーフにしたような案になる。事務局としては、案をベースに、ボタンについてもご検討いただき、そして決定いただきたいと考えている。以上の4点になる。お手元の資料には参考資料として業者が案として作っている価格表のような資料があるのでご覧いただければと思う。説明は以上になる。

部会長 ・今の説明について質問等はあるか。事務局から言われたのは、12月5日の新中学校の説明会の3日後の12月8日に行う物品販売において、ここにあるもの全部を出していいか、というのが1点。そして2点目、確認と言われた

	<p>のは資料1の内容はこれでいいかについて。その後ロゴの方に行くので、まずこの1、2点目を先に伺いたいと思う。よろしく願います。</p>
委員1	<ul style="list-style-type: none"> この連絡というか、こういった内容というのは12月5日に集まるという連絡のときに、もう事前にこれ周知されるもので、考えればいいのか。この資料1は12月5日に聞いてその3日後に販売となると「3日しかない」となってしまう。こういった内容が事前に周知されてイメージできたうえで12月5日を迎えて、それで3日後となるのは全然違うと思うので、資料1の配布予定はいつなのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 例年、こうした資料を学校通じて事前に保護者にお渡ししている。この資料は素案になるが、これから修正するので、1ヶ月もすれば完成すると考えている。早すぎると忘れてしまうので、できれば1ヶ月前ぐらいには、お渡ししたいと思う。1ヶ月あれば検討いただく時間もあると考えている。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> 他にあるか。
委員2	<ul style="list-style-type: none"> この内容は中学校に問い合わせが来ても答えられないと思う。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> 資料1の推奨品について、問い合わせ先が各中学校で良いのかという話か。
委員3	<ul style="list-style-type: none"> 問い合わせを受けた職員が全てを理解してないと難しい。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> ずれた話が出たりすると混乱するので、事務局にしてはということか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 中学校に問い合わせというのは今の中学校の規定についてになる。こちらで決めていることについては当然こちらで説明できるが、全体としてはこういうふうにしようとしている。1、2年生の間はそれぞれの3中学校の規定に従うということが前提になると思う。その時にどこまで認めるか、何に従うか、ということは中学校の判断の方がいいと思う。こちらで勝手に決めてしまうと中学校が困ることになりかねない。その辺の表記の仕方については、どのような形にするか相談させていただきたいと思う。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> 推奨品の(2)の④としてあるが、一番下の文字だけ読んで気がかりなことについての全てを中学校に聞く可能性はあるので、そのあたりの表記の仕方については、誤解がないように、説明があったように「1、2年時について」と注意喚起を考えた方がいいと思う。
委員4	<ul style="list-style-type: none"> 1ヶ月前とかに配る時に「これを読んで気になるころがあったらご意見ください」みたいな形にすれば、意見が多かった内容について12月5日に答えられる。学校が答えられないものがあつたら事前に確認することも1ヶ月前だったらできる。そうした文面にするのもいいと思う。その場で答えられない内容については、誰であっても答えられないと思うので、1ヶ月の猶予を見るのはいいと思う。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> 事務局と中学校で情報交換していただき、1ヶ月あるのであれば、その間に誤解のないようにという流れになるようにできるといい。
委員5	<ul style="list-style-type: none"> 校則の説明会は各学校で2月頃に実施する。そこで説明するので、先に出されても全部後回しになってしまう。「各中学校の校則については各中学校の入学説明会で説明があります」としてもらおう方がいい。

部会長	・なおさら迷う可能性がある。一度、整理してもらう必要がある。
事務局	・3中学校の校長に相談させていただきたい。こちらでないといけないこと、学校じゃないとわからないこと、ということが出てくるかと思う。そのあたりを確認してお尋ねいただけるようにしたいと思う。
部会長	・確認だが物品展示は12月8日に初めて展示ということか。12月5日には展示しないのか。
事務局	・これについても業者との相談になるが、できれば12月5日の説明会には並べておきたいと思っている。また相談させていただきたい。
部会長	・いきなりそこに展示されても人だかりになると見にも行けない。じっくりゆっくり見れるようにしてほしい。
事務局	・検討する。
部会長	・全てを展示することについては特に反対意見はないということで、資料については誤解がないようにということで事務局と中学校とで擦り合わせをしていただく。個人的には見出しが気になっている。「制服等を購入される保護者の皆様」とは具体的には誰のことなのか。本来は「小学校6年生の保護者の皆様」かと思う。見出しについても考えていただいたほうが良いと思う。これだけ見ると何年生でも当てはまる感じになる。事務局から4点と言われた中の1・2点目は以上でよろしいか。それでは3点目の資料2-1、体操服のロゴ・マークの決定についてご質問等はあるか。
部会長	・生徒に聞かない理由はあるのか。先生も全ての先生でなく、ワーキング会議の先生に限定したのは何か意図があるのか。
事務局	・当初は全ての子ども達にと聞くことも考えたが、学校の方にはこれまでに何度も聞き取り調査を依頼してきたので、学校への負担が増えてきたという思いもあり、学校に無理をかけない方法という判断により、ワーキング会議の先生からの意見ということで本日は提案させていただいた。本日の部会の中で、もっと聞き取るべきとの意見が多ければ、再度、学校とも相談させていただきたいと思う。
部会長	・確認だが、恐竜マーク4(なし)というのは、ロゴもマークも何もつけないという意味か。
事務局	・マーク4については、ロゴ案のみを採用し、マークは付けない形になる。
部会長	・恐竜のデザインはなしということか。このロゴ・マークを候補から選ぶ手順として先生の意見をベースにという話だが、それについてはよろしいか。やはり子どもに聞くべきとの意見はないか。手を煩わすことなく保護者にQRか何かで回答いただく方法もあると思う。先程の説明だと多かった「ロゴ案3」の「マークなし」にしたいということかと思うがいかがか。ご意見等あればどうぞ。
委員6	・個人的な意見ではなく、前回のエンブレムを公募した際に、とある保護者からいただいた意見になる。小学校4年生から中学校3年生までのお子さんが選んでいるが、中学生は自分が行く学校ではないのに選んでいるので他人事

になってしまうという意見だった。実際には他人事ではなく、現中学生が自分だったらどうかという観点で考えているので個人的には問題ないと思う。小学生だけから意見を集めていても、中学校に行ったこともないのに決められるのかという意見も出てくると思われる。結局、もめるので、この決め方はよかったかと思う。今回、体操服のロゴについて生徒に決めさせるのであれば、一貫性を持たせて、前回と同じやり方をとるべきと思う。どの決め方でも必ず「この決め方でいいのか」という意見は出てくると思うので、「こういったことはこういう手順で決める」とすべきと思う。前はあれ、今回はこれ、となると批判を招く原因になってしまう。

部会長 ・他にあるか。賛同する意見、あるいはそれはそこまでしなくていいんじゃないかという意見でも何でもいい。色々な意見がある方がいいと思う。

委員7 ・エンブレムには恐竜がいたのに、なくしてしまうのか。

部会長 ・何故、変えるのかと、そういう意見もあると思う。

委員8 ・恐竜がいた方が遊びがあって面白い。

部会長 ・忌憚なくおっしゃっていただければと思う。先程のように、ご自身のご意見でなく、集めてきた意見を出していただくのもいい。それも皆様のお役目の1つかと思う。何かご意見あればどうぞ。

委員9 ・コストは同じか。

事務局 ・同じになる。

委員10 ・大きかったり小さかったりするわけか。

事務局 ・そうなる。

委員11 ・個人的には恐竜じゃない方がいい。ボタンの案でも恐竜ではないものがある。多様性というか、恐竜のデザインだらけのところに、恐竜でないデザインが1つだと目立ってしまう。

委員12 ・これ何色なのか。

事務局 ・資料にて黒で表示されている部分は、体操服の色になる。体操服に白色でデザインが印字されることになる。

部会長 ・黒いところがジャージの色で、白い色は何か。

事務局 ・プリントになる。

部会長 ・事務局の提案はこれを入れるという前提での話なのか。

事務局 ・何も入れなくていいという意見もあるかもしれない。それを否定しているわけではない。

部会長 ・事務局は入れた方がいいと思っているということか。その思いは何か。

事務局 ・この体操服のデザインは中に白い線が入っている。それに加えて正面にはプーマのマークがあり、名札をつけることになる。そう考えると正面にはこれ以上、マークは入れられない。ただ、そうすると学校のマークがどこにも入らないことになる。最近のメーカー品では首の後ろにつけてるものもある。そうしたものが今の流行りかと思う。やはり、どこの学校かわかるマークは入っていた方が良くと思うので、首の後ろになった。

- 部会長 ・そうするとマークもあり、名前もあり、ごちゃごちゃするので後ろにつけるということでもよろしいか。いらないという意見はないか。
- 委員 13 ・勝山中学校とわかるようになればいいと思うので欲しいと思う。デザインが背面になる点については体型をわかりにくくするデザインになっているような気がするので仕方ないと思う。
- 委員 14 ・先生が選んだデザインは悪くないと思うがエンブレムが恐竜マーク 2 と同じだと思う。全然違うデザインにするなら、また生徒に聞く必要が出てくると思う。恐竜マーク 2 にすれば同じマークだから、部会で決めたと言え、反対意見は出にくいと思う。「勝手に決めた」という感覚が薄れると個人的には思う。もし違うデザインにするなら元に戻るべき。そうなると学校に迷惑をかけることになると思う。
- 部会長 ・他にあるか。
- 委員 15 ・個人的にはブレザーのマークが決まって発表されている中で体操服のマークをあえて変える必要があるかと思う。今おっしゃったように中学校のマークという決めつけで言っているのであれば、あえて変える必要はないと思う。
- 委員 16 ・どれがいいかは決められないが、制服よりも体操服の方が、部活動の大会等で他校と触れ合う機会は多いと思う。その時に「その体操服の恐竜すごいかっこいい」となるか否か、私にはわからないが他校の生徒たちと触れ合えるというのが、このデザインのメリットかと思う。
- 部会長 ・他に意見はあるか。
- 委員 17 ・先生の負担や、いつまでにこれを決定しないと物品販売に間に合わないといった問題はあるかもしれないが、それが許す限り、できれば子ども達に聞いていただき、「自分たちが選択に関わった」というところを変えずにやっていただきたいと思う。
- 部会長 ・「大人がいつの間にか勝手に決めていた」というよりは、子どもに聞いた方がいいということだと思う。これはこの場で決める必要があるのか。
- 事務局 ・方法は決まらなくていいが、どうするか方向性は決めたい。
- 委員 18 ・デザインを同じにするならもういいと思う。
- 委員 19 ・ワーキングチームではどのような話があったか。恐竜なしが人数的には多かったのは何故か。理由があるといいのと思う。エンブレムはどちらかというマークが主体だと思うが、今回はロゴが主体になると思う。経緯についての話があると良いかと思う。
- 事務局 ・正直に申し上げると、ワーキング会議では、後ほど皆様にご協議いただく教育内容の方に時間を要して、デザインの理由については聞いていない。ただ話の中で絵がない方がいいという意見が多かった。また、体操服につけるものとしては文字が一般的との意見もあり、絵がついているデザインをイメージしにくいという理由で「なし」に手を挙げられた方が多かったのではないかと思われる。文字については、好き好きという感じがした。特段の思いと

	<p>いう印象は受けなかった。</p>
部会長	<ul style="list-style-type: none"> ・文字が一般的というのは、それが多というだけで、例えば大学だと校章やマークといった、一目でどこの大学かわかる。仮にデザインとして文字がなくても定着すると勝山中学校だとわかるようになると思う。定着すれば読まなくてもわかる。まだ次の議題もあるのでそろそろ皆様の意見を一つにまとめたいと思う。まず、事務局からの提案もあるが、既に決めたものがあるので、全てそれで通すべきとの意見があった。それについて如何か。確かにその通りという方が多ければそれでいいと思う。
委員 20	<ul style="list-style-type: none"> ・それはボタンも同じデザインにするということか。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> ・そうなる。
委員 21	<ul style="list-style-type: none"> ・ボタンまではくどい気がする。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> ・前回決めたエンブレムと同じものを使い、全て統一でいいという方。挙手いただきたい。僅差だが、挙手していない方が多い。では次に、大人で決めずに、子ども達に聞くべきという方、挙手いただきたい。
委員 22	<ul style="list-style-type: none"> ・この場合、一貫性を持たせるのはどこになるのか。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもに聞く」という点での一貫性。
委員 23	<ul style="list-style-type: none"> ・やり方・決め方においてということか。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> ・三人だけなので、ここで新しいものを決めていいという意見が多いということでは、恐竜マークがある方がいいと思う方、挙手いただきたい。過半数ということで、どのマークがいいか挙手いただきたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ちなみに案2はエンブレムと同じ恐竜になる。案1と案3は違うデザインの恐竜になる。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> ・案2はエンブレムと同じ全く同じか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・案2は同じになる。また、案1、2、3は文字の上に恐竜を置く構図だが、別案は、横に並べたものになる。業者から提案をいただき、そういう配置の仕方もあるということで、提示した。
委員 24	<ul style="list-style-type: none"> ・別案も選択できるのか。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> ・別案も含めて、ここに示されたものから選ぶ形と思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・細かい話をするとロゴ案の中で案2の丸型は恐竜とくっつけられるのかということもある。くっつける選択肢でいうと案1、3、4の3種類がある。恐竜の絵も案1、2、3で3種類あるので、くっつける組み合わせを考えると示した選択肢よりも多い。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> ・なるほど、今のマーク案1、2はロゴ案3に基づいて例が示されていて、マーク案3と別案はロゴ案4に基づいて例が示されている。恐竜マーク案1と言ってもロゴ案1が組み合わせられる可能性もあるということか。難しい。想像ができない。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・方向性を決めていただきたいと思う。デザイン的なことは業者に考えていただく想定でいる。
部会長	<ul style="list-style-type: none"> ・恐竜のデザインというか図案的にいうとどれがよろしいかということを開

く。改めて、ロゴは変わるかもしれないが恐竜マーク案1がいい方、挙手いただきたい。案2はどうか。案3はどうか。別案はどうか。別案の方が多かった。

委員 25 ・横長の方がいいと思う。

部会長 ・案1、2、3だと縦に並べるからスリム感がなくなるということか。

事務局 ・別案については、ロゴとしては案4になる。これはよろしいか。

部会長 ・これ横長だとロゴ案4の柔らかさが合うということで業者も出していると思う。ロゴ案3だと硬い気がする。あとは山の雪の感じか。

事務局 ・イメージは白山になる。

部会長 ・スキージャンプかと思っていた。

委員 26 ・なぜエンブレムにない山を入れるのか。なくても良い気がする。

部会長 ・確認だが、子どもには聞かず、ここで決めて、別案をベースにという形でもよろしいか。では、その方向で。続いて、資料2 - 3のボタンデザインについて。これエンブレムAベースがないのはなぜか。

事務局 ・Aベースというのは、恐竜のデザインをベースにしたものになるが、業者から恐竜の顔がボタンに合わないという話があった。

部会長 ・業者の意見ということか。

事務局 ・そうなる。また、基本的にはエンブレムがシルバーになるので、ボタンもシルバーでいきたいと考えている。

部会長 ・では、これも子どもには聞かずにここで原案を決めたいと思う。ボタンは前だけか。

事務局 ・そうなる。袖口にはついていない。

部会長 ・それではBベースがいいと思う方、挙手いただきたい。Cベースの方、挙手いただきたい。今の意向を踏まえた形になるということで当初依頼された4点について終了する。それでは次にいきたいと思う。

事務局 ・これは報告事項的な内容なので、お聞きいただき、ご意見があれば頂戴したいと思う。まず、部活動の地域移行に関する進捗状況について、この件については学校運営部会の協議事項ではないが、新中学校の放課後活動を考える上で非常に大きな影響があるので、ご報告させていただく。資料3については教育委員会、校長会、市のPTA連合会、この連名で11月を目処に保護者に向けて、「令和8年度の夏以降、休日は部活動を行わない」旨を伝えるものになる。文部科学省の方針を受けて、足並みを揃えて進めていきたいと考えている。この件に関しては、市のPTA連合会でも要望いただいたことで、連名で保護者の皆様に知らせたいと考えている。この周知にあたり、子どもたちがどこで活動するのかを心配する保護者も多いと思い、受け皿となる団体を募集し始めている。市役所内に健康体育課、未来創造課、商工文化課によるワーキングチームを立ち上げて、それぞれが所管するスポーツ協会やスポーツ少年団、文化協会等の市民活動ネットワークの代表者に中学生を受け入れるような動きについて呼びかけを始めた。その資料がまとまり次

第、この資料3と合わせて、保護者の皆様に配布していきたいと考えている。令和8年度の夏というのは、開校時に中学3年生となる現在の小学6年生の子ども達が中学校2年生として中心になって部活動を行う時期にあたるので、早くから地域の活動に参加しようとする子どもや保護者もいると思われる、部活・放課後活動に対する考え方も大きく変化する可能性がある。新中学校の放課後活動については、これまでも議論いただいているが、そうした動向も踏まえて検討を進めたいと考えている。報告は以上になる。

- 部会長 ・これについて、何か意見はあるか。
- 委員 27 ・この休日は土日ということかと思うが、長期休みも休日になるのか。
- 事務局 ・一般的に長期休みについても土日を休日と捉えているので、夏休みは一切何もしないということではないと考えている。
- 部会長 ・夏休み中の平日はどうなるのか。
- 事務局 ・夏休みであっても平日については活動があると考えている。
- 委員 28 ・土日だけがなくなるということか。
- 事務局 ・土日および祝日の活動がなくなるという認識になる。
- 部会長 ・そこを心配している保護者もいると思うので、これも文章の書き方を工夫すると思う。文章を作る方からすると当たり前になっている部分があるので、今のようなご意見もどんと出した方がいいと思う。
- 事務局 ・PTAからの了解をいただいた際に、Q&Aを作るように依頼を受けた。全国的に色々な市町が出しているので、そうしたものを参考に説明できるものも配布したいと考えている。
- 部会長 ・個人的に気になるところがある。保護者だけでいいのか。勝山市民の皆様にもこういう動きがあることを伝えるべきと思う。わざわざ通知文を出す必要はないと思うが、市の広報等で進捗状況について知ってもらえるといいと思う。
- 事務局 ・課でも協議して、周知できる方法にしたいと思う。
- 部会長 ・続いて、連携型中高一貫校についてお願いします。
- 事務局 ・教育システムに関わる内容について話をさせていただく。資料4-1をご覧ください。このような形でカリキュラムの骨格となる考え方を説明させていただいた。基本的には資料どおりだが、勝山中学校と勝山高校を同じ敷地に作って連携を進める恩恵を全ての子ども達が得られるようなシステムを作りたい。これが基本的な願いになる。その一つとして、勝山高校を選択した子ども達は中学2年生から3年生の適切な時期に連携生徒になっていただき、簡便な入試、いわゆる学力テストとか調査書とかはない形での入学ができるようにしたいと考えている。簡単な入試することで受験がなくなる分、中学校の間に様々なカリキュラムを受講し、やりたい勉強に集中できるという形で子ども達の特性を伸ばしていける教育を進めたい。ただ、勝山中学校に入ったからといって、勝山高校に入らないといけないわけではないので、他の学校に進むこともあるし、簡便な入試ではなく一般入試で勝山高校

に入ることも可能になる。この資料をベースに、これまでワーキングチーム会議等で小・中学校の先生方にも意見を聞いているが、もう少し具体的に詳細を決めていきたいと考えている。最初の図では、連携生徒を2年生から3年生の適切な時期に選考すると書いているが、この適切な時期はいつ頃か、ワーキングチーム会議でも意見をいただいた。資料4-2をご覧ください。選考時期ごとの影響について一覧にした。あくまでもシミュレーションとして考えたものになる。A案は、連携生徒を2年生の3学期に決めて、3年生の4月から連携生徒用のカリキュラムをスタートするものになる。B案は、連携生徒を、3年生の1学期、だいたい6月頃に決定し、夏休みあたりから連携生徒用のカリキュラムをスタートするものになる。C案は連携生徒を3年生の2学期、だいたい11月頃に決めて、3年生の1月から連携生徒へのカリキュラムをスタートするものになる。連携生徒へのカリキュラムについては、3年生時の英語と数学の授業で高校の先生がTTとしてサポートして下さること、それから8月あたりにサマーセミナーを実施すること、受験終了後の合格者に対する如月セミナー、以上の3つを取り出して比較した場合にどうなるかを図示している。A案は、勝山高校に限らず普通科高校への進学を希望している生徒全員に連携生徒になってもらい、進路指導を受ける中で学校を選択するスタイルをイメージしている。この場合、学年に約150人の生徒がいると想定して、その7割から8割にあたる100人から120人の生徒が連携生徒になることを想定している。検討していく中で抜けていくと最終的に、この100人から120人の7割から9割が勝山高校の受験生になると想定している。3年生の英語と数学の授業については、クラスを解いて「連携生徒のグループ」と「連携生徒以外のグループ」の形をとって、できるだけ少人数で高校の先生のサポートを受けながら進める形になる。C案をご覧ください。C案は比較的現状に近く、勝山高校進学を希望する生徒のみを連携生徒とするスタイルになる。この場合は、6割から7割にあたる90人から100人ぐらいが連携生徒になると想定している。3年生の11月に決めるということは確定した進路になるので、そのままの人数が勝山高校を受験すると想定をしている。この場合は、まだ連携生徒を決定をしていないので、3年生の英語と数学の授業は全員を対象にして習熟度別でクラスを編成し、勝山高校のサポートを受ける形になる。B案はA・Cの中間的な案になる。それぞれのメリットについて、厳密なものではないが、事務局の想定を資料の下の方にまとめている。あえてその特質を分けるとすると、「1. 生徒の学習意欲・進路意識の向上」については、A案の場合は早くから進路を考え始めるので、他案よりも進路に対する意識は芽生えやすいと考えている。「2. 連携生徒を希望する生徒」については、A案の場合は普通科高校進学希望者を全て連携生徒にするので、他案よりも連携生徒は多くなると考える。「3. 勝山高校希望者の増加」については、A案の場合は早くから連携生徒として色々な活動を受けていくことで希望者が増える想定してい

る。「4. 連携生徒以外の生徒のモチベーション」については、早くにわけ
ることで連携の有無による差も早くから生じる。C案の場合は2月まで連携
の有無がわからないので、連携生徒でない生徒のモチベーションが下がりに
くいと想定している。「5. 英語・数学の少人数講座」については、A案の
場合は連携生徒の人数によってクラス編成の仕方が難しくなる。B・C案の
場合は全員を少人数クラスにわけるので人数が安定し、わけやすい。以上の
理由で各案のメリットをまとめた。皆様には、連携のメリットを子ども達に
最大限還元できること、子ども達が勝山高校に行きたいと思えること、それ
ぞれの観点で意見をいただきたい。説明は以上になる。

- 部会長 ・今の説明について質問等はあるか。
- 委員 29 ・連携生徒以外の生徒で推薦や特色で進学する生徒が出てくるのか。勝山高校
に行きたいから推薦や特色を活用する生徒は普通なら連携に入るはず。
- 部会長 ・出てくる可能性はある。
- 委員 30 ・特に推薦は入学をずっと希望していたもののはず。
- 部会長 ・勝山高校に対してで言うと、簡便な入試で入れるから推薦はなくなる。
- 委員 31 ・推薦や特色は勝山高校に対してはなくなる。資料ではあることになっている。
- 事務局 ・今の入試制度では、一般、推薦、特色があるので、こちらがそこを勝手に変
えることはできない。簡便な入試でできることで、言われるように推薦がな
くなることは想定されるが、資料を作るときには一応残した形になる。よく
わかっている人は矛盾しているように見えると思う。そういう意味で捉えて
いただきたい。
- 部会長 ・可能性としては残しているということか。
- 事務局 ・連携生徒でも他校へ行く可能性は当然ある。図的にわかりにくくなっている
ところはあるかと思うが、図示が難しいところもある。ただ、今ほどの指摘
のように実際に始まると、おそらく推薦とか特色は市外からの生徒が使う枠
になると思う。
- 部会長 ・他に質問等はあるか。
- 委員 32 ・連携生徒以外を選ぶ生徒とは、どんな生徒なのか。連携生徒でも勝山高校以
外に進学できるのであれば、連携を選ばない生徒がいるのか。
- 事務局 ・例えば、職業系の学校へ進む生徒や部活動等で進学先を決めている生徒につ
いては連携生徒にならない選択をする可能性がある。また、いくら連携生徒
になるメリットがあっても、その生徒に対して勝山高校の指導体制が合わな
い可能性もある。その点については、進路指導の中で十分に見極める必要が
あると考える。どんな生徒かというところでは、例えば、生徒が職業系を希
望している中で、連携の活動では職業系のことはできない可能性があると思
う。そうした場合に連携生徒以外を選択する可能性はあると想定している。
- 委員 33 ・自信がない。誰でも入れる学校になる。中学校に勤務していたら、子ども達
にうまく説明ができるか自信がない。生徒から「誰でも入れるでしょ」と言
われたら「そうだね」と思う。選考において、希望しても連携生徒になれな

い場合が気になる。先ほどの説明だとそれは高校が言うのか、中学校が言うのか。それを中学校の先生が生徒に言うのであれば、中学校が高校入試を代行してることになる。難しい局面がいくつも想像される。

事務局 ・言われたように「誰でも行ける学校に望んで行くのか」という意見は他の先生方からも受けている。受験を自身のハードルを超える機会にしたいとか、ハードルを超えることで自身の力を伸ばしたいとか、そうした生徒もいると思う。そういった生徒に勝山高校に来てもらうためには、それに代わる目標設定をする必要があると思う。例えば、勝山高校は入学後に習熟度別でクラス編成をしているので、それを活用して、クラス分けテストを受験の代わりに自分の目標を達成するためのハードルとしてももらう。それも1つのアイデアだと思う。選考から落ちる生徒については、ほとんど全員が希望する場合であっても、例えば早くから連携生徒希望者が多いとわかっているならば、高校もそういう前提で準備をしていただけたらと思う。そうすると、選考を中学校でやる可能性は低いと思う。また、できるだけテストの点数で先行する制度ではなく、適正で判断したい。今、5割程度のところが7割、8割が勝山高校に行くとなることが理想ではあるが、現状はどこかで切らなくても済むような制度になるとを想定している。

委員 34 ・事実としては他の地域は2年生の3学期の2月頃、おそらくA案の時期にされている。あわら地域、越前地域、美浜地域は2年生の3学期に連携生徒を選考と書いてあるのでこの時期に合わせるか否かを考えると、これらの地域が2年生の3学期にやっているメリットがあるのであれば、それが勝山でも享受できるのか。もし享受できないのであれば、個人的にはB案がいいと思う。2年生の3学期に勝山高校がいいか否か聞いても、おそらくわからないと思う。そういった意味では3年生になってからの方がそうした意識が芽生えると思うので、個人的には余程のメリットがない限り、2年生の3学期は時期尚早だと思う。また、誰でも行けるとなると競争がないので「行ってから考える」となりかねない。果たしてそこから意欲は出てくるのかを考えると、やはりやる気のある子が行く方が絶対にその子にもメリットが出るし、勝山高校にもメリットがあると思う。みんなが行けるからと言って、みんなと同じことができるかというところではない。誰でも行けるという観点では失敗すると思う。そうした観点にはならないように周知すべきと思う。

事務局 ・あわら地域と越前地域はその時期に選考して、あわら地域なら金津高校に、越前なら丹生高校に、それぞれ進むということで連携生徒として選考する。美浜地域は違って、美方高校以外の高校に進んでもいいから、みんな連携生徒にする。勝山は美浜に近い。あわら地域や越前地域は金津高校、丹生高校に進むと決めた生徒に対して3年生の4月から高校のTT授業等をする。そのクラスだけにそういうことをやる。勝山の場合は1つの中学校になることもあって、連携生徒は作るが、単独のクラスは作らないという方針をまず決めて、できるだけ全ての生徒が恩恵を受けられるようにしたいという

ことがある。そのうえで、勝山高校にできるだけ行ってほしい思いがある。100人から120人となると、勝山高校の定員109人を超えている。これはどういう意味かということ、勝山の中学生の進路を直近5年ぐらいで見ると、7割が私立を含めた普通科高校へ進んでいる。3割は職業系の高校や定時制、通信制、特別支援学校に進んでいる。私立を含めた勝山高校以外の普通科高校に進みたい生徒は、大学進学を考えて進路選択すると思う。だからそうした生徒も連携生徒になってもらい、色々な指導をして力をつけてもらう。その中で他の高校を考えていた生徒にも、勝山高校でも同等以上の学びが得られるようになって、勝山高校に進んで欲しい。多めの設定には、そういう思いがある。ただ、そうなるといいと思って多めにしたが、本当にそうなるのかは、指導の問題にもかかってくる。そこはどんなプログラムで子ども達に教えていくか、支援していくかをしっかり考える必要がある。勉強しなくても勝山高校に入れるという考えの生徒ばかりにならないように、課題は当然ある。そういう意味ではC案の方は時期は遅いが、勝高への進学を決めた連携生徒になる。だから、その時点で70人から80人を指導していく必要がある。そういう課題もC案にはある。一長一短があって、どうすべきかはあらゆる角度から考えてる。これは勝山高校の3年間での育て方も当然、リンクしているので、そうしたところも合わせて、県教委や勝山高校と意見交換しながら、少しずつ詰めている段階になる。

委員 35 ・勝山高校としては勝山市に唯一の高等学校として、勝山市民に選ばれる魅力のある学校になるように精一杯、努めている。ただ、格案のメリットの中の3番「どうしたら希望者が増加するか」は、いつも考えている。現実問題、連携生徒を決めない方が、いつでも勝山高校を選択できるのであれば、最後まで決めない方がいいという気持ちもある。A案である程度の人を集めた方がいいのか、どうしていいかわからないところもあって、市教委とも県教委とも協議している。こうした機会に皆様の意見をいただきながら、また今後の方針をある程度、固めていく状況に近づいているので、意見等いただきたいと思う。

委員 36 ・勝山高校って年間の中退者は何人くらい出ているのか。

委員 37 ・基本はゼロになるが、進路変更や転校で1名か2名、出ることがある。

委員 38 ・進路変更とは、普通科から職業系に移るということか。

委員 39 ・どちらかということ定時制や通信制の、いわゆる不登校で登校が難しくなって転校する形になる。

委員 40 ・連携生徒になって勝山高校に入る、そこまではいいが、普通科高校ならそれなりの学力がないと卒業できない。中退して悪い人生に歩いていくというのが一番いけないことだと思う。みんなが連携生徒になるのはいいことだが、できるだけ生徒を見極めないと、不幸なことになると思うので、そこは慎重にやっていただきたいと思う。

委員 41 ・今、勝山高校に入ってくる生徒の学力という物差しで答えていいかわからな

いが、多様な生徒が入学してきている。現状、一人一人に寄り添って、単位が取れないとか、進級できないとか、そういうところを個別に対応しながら、減らしている。そういう意味で中退者がほぼいない状況になっている。普通科高校である以上、一定程度の単位の履修習得が求められるが、今の高校の方針としても、とにかく寄り添いながら、しっかりその生徒のいいところを評価できるようにということを学校全体で取り組んでいる。

部会長 ・他にあるか。

委員 42 ・簡便な入試とあるが、「簡便」を調べると「簡単で便利なこと」とある。高校入試に対して簡単で便利という表現は疑問を感じる。入試はある意味で一発勝負なところもあるが、ある程度、3年間の成績を見越して選択してもらう必要があると思う。簡便に代わる表現はないのか。

事務局 ・同様の意見はいただいている。簡便という言葉が「どうでもいい」といった印象を与えてしまうので、違う名前の方がいいという意見も聞いている。課内でも違う呼び方ができないか協議もしている。ただ、意味としては「学力試験や調査書によらない入試の方法」ということ。言葉の問題については制度上そうした名前がついており、それを変更はできないかもしれないが、勝山の場合はそう呼んでいるというイメージかと思う。

部会長 ・既に先行している3地域でもこういう言い方をしているので、この表記していると思う。1点伺いたい。資料4-1について、この資料はそもそも誰に向けて作ったのか。今回この会議に向けて作ったのか。

事務局 ・これは特別委員会での説明に際して作成したものになる。

部会長 ・資料には「中高一貫の恩恵」と書いてあるが、恩恵とは何なのかをもっとしっかりと書いた方がいいと思う。見出しが「選考について」になっているので選抜の話になっているが、まず、こういう恩恵があると共通理解として定義付けする必要があると思う。どうしても入試が視点になってしまい高校に入れるか否かという議論になってしまう。中高一貫教育の面白さや良さは、6年間でどう育てるかだと思う。そのために高校入試の勉強にかかる時間を取り払い、その時間を違うことに充てられる。そこを如何に伝えるか、勝山高校が問われている。魅力があれば当然みんな行く。こんな点数取れて、こんな大学行けるではなく、非認知能力であったり、やる気であったり、そこを伸ばせば生徒たちは力を発揮して認知能力のテストについても点数は上がっていく。テストの点数上げるための話ではなく、簡便な入試によって、受験勉強の代わりに、色々な体験・経験をしてもらい、それを高校で更に伸ばして、将来的には勝山を支える元気ある若者を作る。そこを如何に説明するか。個人的にはA案より前の時期、2年生の4月でも、もっと早くてもいいと思う。別にいつでもいいが、勝山高校の魅力を如何にPRできるかだと思う。テクニク的な話ではない。そうすると入る入らないという話になってしまう。どれだけ勝山高校の魅力を出しても、職業系で学びたい子や、私立に行きたい子もいる。それはそれでいい。勝山高校の魅力問われている話だ

と思うので、まず、最初に恩恵をはっきり書く必要がある。これだけ見ていると、簡便な入試が恩恵になってしまう。そこを勘違いされないようにする必要がある。メリットとしては1年からでも、2年からでも、3年からでも、高校入試のための勉強をしなくていい代わりに何ができるのか、どんな育て方をするのか。高校卒業時にこんな子になっているように、1年から何をするか、そこをしっかりと明確に出すといいと思う。他に意見がなければ時間なので終わる。各案のメリットも疑問が多々あるが言い出すときりが無い。他にないようなので事務局にお返りする。

事務局 ・たくさんの意見をいただき、ありがとうございました。今後に向けて、またご意見いただきたいと思う。本日はこれで終わりたいと思う。お忙しい中、本当にありがとうございました。

【資料1】 制服等を購入される保護者の皆様へ（案）

【資料2 - 1】 勝山市立中学校体操服ロゴマーク候補

【資料2 - 2】 新体操服ロゴマーク一覧

【資料2 - 3】 勝山中学校ボタンデザイン（案）

【資料3】 令和8年度以降の中学校の部活動について（案）

【資料4 - 1】 中高連携カリキュラムおよび連携生徒の選考について（検討案）

【資料4 - 1】 連携生徒決定時期等の検討案